基礎看護学実習要綱

社会医療法人社団三草会
三草会札幌看護専門学校
８期生

目　　次

1. 基礎看護学実習の目的・目標・学習段階 ---------- P　1～2

2. 基礎看護学実習Ⅰ ---------- P　2～13

3. 基礎看護学実習Ⅰ　評価表・評価ガイダンス ---------- P　14～17

4. 基礎看護学実習Ⅱ ---------- P　18～29

5. 基礎看護学実習Ⅱ　評価表・評価ガイダンス ---------- P　30～34

基礎看護学実習

実習目的

対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を養う。

実習目標

１．看護活動の実際を知り看護の機能と役割がわかる。
２．看護の対象は、身体的･精神的･社会的な側面をもち、それぞれ関連していることがわかる。
３．コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。
４．健康と生活の結びつきがわかり、対象に必要な看護を考え実践するための看護過程の展開方法が理解できる。
５．対象が必要とする、生活援助技術を原理・原則に基づいて実践できる。
６．チーム医療の一員として多職種との連携・協働の必要性を理解し、看護師の役割がわかる。
７．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動ができる。
８．看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる。

実習単位・時間

教育科目	単位　・　時間	
基礎看護学実習Ⅰ	２単位９０時間　（９０時間のうち２割学内実習）	9:００～１６:００
基礎看護学実習Ⅱ	２単位９０時間　（９０時間のうち２割学内実習）	9:００～１６:００

実習施設･時期

教育科目	実習時期	実習施設
基礎看護学実習Ⅰ	１年次後期	クラーク病院 南１条病院 土田病院 恵佑会札幌病院 札幌美しが丘脳神経外科病院
基礎看護学実習Ⅱ	２年次前期	クラーク病院 時計台病院 土田病院 北光記念病院 札幌美しが丘脳神経外科病院

基礎看護学実習Ⅰ

実習目的

日常生活行動の制限や健康障害のある対象の療養環境を考え、日常生活援助の必要性がわかる

実習目標

１．対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる。
２．対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる。
３．対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる。
４．スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる。
５．チーム医療に参加して、多職種と連携・協働していることがわかる。
６．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる。
７．看護体験を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
１．対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1)対象の生活背景がわかる	(1)受け持ち対象の紹介 ①対象の情報について指導者より説明を受ける ・受け持ち対象の疾患名、治療方針、禁忌事項、症状、日常生活動作、看護課題、看護目標、看護計画について説明を受ける (2)情報収集の方法 ①診療録・看護記録の見方と必要な情報の取り方 ②知りたい情報を観察やコミュニケーションから得る方法 (3)入院前の健康状態 ①基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理する ・身体的側面：身長・体重など ・心理・社会的側面：家族構成、職業、生活環境など ・認知的側面：学習機能や認知度など ・一日の生活様式(入院前・後) (4) 病気・治療の経過・状況 ①基本的欲求を変容させる病理的状態の情報を分類・整理	a.対象のオリエンテーションを受ける ・受け持ち対象について病態と、その経過や治療、自立度、注意事項について説明を受ける ・レントゲン画像などを使用し、必要時説明を受ける ・出現している症状と治療の関係性がわかるように調べる ・対象の看護の方向性と看護計画について説明を受ける b.診療録、検査データー、看護記録の見方・情報の取り方の指導を受ける c.コミュニケーションを通して必要な情報を対象から情報収集する d.アセスメントガイドを用いて情報を整理する e.発達段階の身体的･精神的・社会的特徴と発達課題を学習する

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	2)病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる 3)対象の入院生活行動の情報を得ることができる

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		面会者など)や日課・生活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする	
	2)対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる	(2)入院生活や病気・治療に関する対象の精神面への影響を考える ①対象との会話・表情・態度・行動を観察する ②対象の話す内容を受け止め入院生活や病気,治療に対する思いを知る ③対象の価値観があることを感じ取る	a.対象の思いに触れその意味を考えてみる b.他者と自分の価値観の違いを知る
	3)倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	(3)思いやる行動がとれる ①対象の反応を捉え自己の行動を調整する ②説明と同意の確認 ③了解了承を得てから看護援助の実施をする ④プライバシーに配慮した行動をとる ⑤対象を尊重した態度で接する	a.対象の価値観の尊重 b.ねぎらいの言葉掛け c.対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る d.プライバシーへの配慮
３．対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	1) バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる	(1)日常生活の援助の実際を看護師について次の場面に参加する ①バイタルサイン測定と観察 （変動因子の確認と随伴症状の有無を観察） 体温の測定と随伴症状 脈拍・呼吸測定と随伴症状 血圧測定と随伴症状 ②正常異常の判断(基準値、日常性と比較し判断する) ③測定値と観察からアセスメントし看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断をする	a.対象の看護計画を見て、援助内容を確認する。情報収集で未充足と判断した基本的ニードに看護援助がどの様に実施されていたか確認 b.生活と看護が深く結びついていることを理解する c.血圧測定が正確に測れているか二股聴診器を用い測定する d.バイタルサイン・観察により異常の判断、日常性と比較し看護援助を実施してよいかの判断とその根拠を考える
	2)対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整・環境整備ができる	(1)病院・病棟内の構造・設備・特徴を見学する (2)対象の病室・病床環境を観察し環境の整え方・調整を考える ・安全であるか	a.利用者がわかりやすい表示や工夫、構造設備について確認 b.食事・排泄・清潔・休息を行う時の環境の整え方と援助方法 c.援助技術は科学的根拠に基づ

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		・対象の現状にあっているか ・清潔であるか ・物品は十分で適切か ①病室・病床環境を観察する ・食事環境、排泄環境、睡眠・休息環境、転倒転落防止のための環境になっているかアセスメントする ②環境は満たされていたか、調整が必要かをアセスメントする ・プライバシーの保護、個室、多床室の違い、音、臭気、採光、室温湿度、病室の空間、ベッドの高さ、柵の設置、床、コミュニケーションの場 (3)観察した結果、環境調整技術の援助の実施 ・実施前、対象への説明と同意 ・必要物品の準備、後片付け ・終了したことを対象・指導者に報告する ①対象のベッド周囲・床頭台の整理整頓を行う ・リネン交換 ・埃・塵の除去 ・ナースコールの位置 ・ベッド柵の位置 ・私物の置き場所の確認(ティッシュペーパー、湯のみなど) ②対象の病室環境を調整する ・食事、排泄、睡眠休息環境 (4)対象の一日の過ごし方 ①日常生活動作の自立度 ②健康障害・健康レベルから日常生活(食事・排泄・活動・清潔保持)の状態把握	き原理原則に沿って実施していることの確認 d.日常生活援助(食事・排泄・清潔・移動移送)の援助方法・手順の確認・根拠と留意点の把握 e.日常生活の自立度に応じた援助方法の検討 f.対象の基本的ニード充足のための各環境を観察し下記の視点から考える ・環境調整技術の基礎知識 ・人間と環境の概念を確認 ・療養生活と環境 ・生活環境の調整 g.既習の知識を使い実際の病室環境を観察する ・病室・病床の選択、室温湿度、光と音、色彩、空気の清浄性とにおい、人的環境 h.観察の結果、環境調整技術援助の実際を下記の視点から実施する ・安全であるか ・清潔であるか ・物品は十分で適切か i.リネン交換の実施手順と留意点を確認し実施する
	3)看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる	(5)日常生活援助の実施 ①食事、排泄、清潔、移動移送などの場面で看護師と一緒に準備・実施・後片付けまで援助に参加する ・必要物品の準備	

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		・手順・根拠・留意点を確認してから実施 ・後片付け ②看護師の実践している看護が何のために行われているのか考える ③対象の安全・安楽と自立に応じた援助方法であることを確認する	
４．スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	1)感染予防のための行動がとれる 2)医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	(1) 感染予防行動 ①一処置一手洗いの実施 ②手指衛生 ③便・尿・血液の付着したものの取り扱い (2)個人防護用具 ①手袋･エプロン･マスクの着用方法と外し方 (3)医療廃棄物の分別方法 (4)感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別)	a.スタンダードプリコーション b.手洗い・擦式消毒 c.リネン汚染(便･尿･血液) d.病原菌による消毒薬の違い e.ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法 f.感染性廃棄物の分別と表示 ・バイオハザードマーク ・感染性廃棄物の取り扱い時の注意点
５．チーム医療に参加して、多職種と連携・協働していることがわかる	1)多職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる	(1)病院オリエンテーション ①理念･組織･病院の特色について説明を受ける ・病院の沿革・基本理念、診療機能の特色、病院組織 ・利用者状況（利用者数、在院日数、年齢、利用目的等） ・看護部理念･看護部目標 看護部組織、看護体制 安全対策(感染･事故防止等) ・地域連携、介護福祉部門連携 ②病院各部門の特徴と機能の説明を受ける ・外来、手術室、検査部、放射線部、リハビリテーション部、栄養部 ・医事課、医療相談、地域連携室 (2)病棟オリエンテーション ①看護体制･看護方式･看護記録･報告、病床数・入院対象者の特徴　・看護体制・週間予定・日課・看護基準・看護手順・災害時対策・医療安	a.病院オリエンテーションを受ける ・病院の機能と役割を理解する ・看護の役割・機能、看護活動の概要を理解する ・看護活動の場の理解 b.看護師と共に働くさまざまな職種（チーム医療に携る構成員）を確認する a.病棟オリエンテーションを受ける ・看護の対象を知る ・看護の働きかけの内容を確認する(日常生活の中で営まれる

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		全対策 ②日常生活援助･診療の援助の実際 ・療養上の世話・診療の援助 ③看護と介護の連携 日常生活行動を支援する看護・介護の連携の説明を受け場面の観察をする (3)多職種との協働･連携場面に参加する ･病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認 ･リハビリカンファレンスに参加している職種と内容の確認 ･栄養指導	ケア、健康回復増進、疾病の予防など) ・働きかけの仕方 ・社会的役割と保健師助産師看護師法より看護師の業務の定め｢看護師とは｣ a.多職種チームとしての情報共有と継続的な関わり b.医療チームの一員としての看護師の役割を考える ・情報の共有 ・健康回復･維持するための支援 ・ 多職種間との調整役割
	2)チームの一員として責任ある行動がとれる	(1) 誰に、いつ、報告すべきかを判断し、時期を逃さずに報告する (2)自分で解決できない時、判断に迷う時は相談する (3)場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする (4)指導･助言を素直に聞く姿勢を示す (5) プライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない (6)実習メンバーと協力し学習を進める	a.報告・連絡・相談 b.情報の共有 c.客観的・主観的情報 d.守秘義務、プライバシーの保護 e.リーダーシップ・メンバーシップ f.規律・規範を守る ・挨拶、身だしなみ ・言葉遣い ・約束事を守る ・自己の健康管理 g.他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える h.学生間の協力・協調 i.学生間の情報の共有
６．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる	1)自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる	(1)実習の目的・目標、実習方法を理解する (2)学生自己評価表を用いて適切に評価する (3)自己の課題を明らかにする (4)目標を定め、課題を解決する方法を示す (5)課題解決のための行動を示す (6) カンファレンスで自己の考えを述べる	a.既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認 b.自己課題を持って学習に取り組む c.目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める d.文献･既習学習を活用し学習を深める e.仲間に助言を求める

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	2)継続して学習する姿勢を有している	(7)自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う (1)学習の習慣化 (2)積み上げ学習 (3)看護職としての自己研鑽の必要性 (4)興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢	a.自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る b.自己の傾向を認識し行動を変容させる c.変容した姿を他者にわかるように示す d.常に既習学習、学習ノート、文献の活用をする e.看護学生倫理要領の意味を理解する f.事前学習・事後学習に取り組む
7．看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	1)実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる	(1)看護に対する自分の思い、考えを他者が聴いてわかるように述べる (2)相手の意見を聞き、自分と他者の違いを知り、自己の学びを発展させる (3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考えを記述できる	a.看護の理論を参考に(ヘンダーソン) 実習の学びを通して「看護とは」を考え、自分の言葉で表現する b.看護の主要概念を確認する c.受け持ち対象を通して学べたことを整理する d.自己の課題を明確にする

実習方法

1．対象の選定

1）言語的コミュニケーションが可能である。

2）日常生活の援助を必要とする。

3）病状が安定しており、病態が複雑ではない。

2．実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	9:00～16:00 臨地実習ガイダンス 基礎看護学実習Ⅰガイダンス 施設別ガイダンス 事前学習	1）臨地実習の意義・目的・学生心得 2）基礎看護学実習Ⅰ目的・目標・行動目標・実習内容・実習方法 3）施設別ガイダンス (1) 実習担当教員との打ち合わせ (2) 病院の特徴・交通手段・持参する必要物品の確認 (3) 受け持ち患者の決定・基礎情報の受け取り 4）実習準備学習の確認	様式1-1 様式1－2 自己学習ノート 病院実習開始前提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病院実習　初日	9:00～16:00 病院オリエンテーション 病棟オリエンテーション 臨地実習指導者の紹介 行動計画表の発表 受け持ち対象の紹介・挨拶 受け持ち対象の情報収集 コミュニケーション 看護援助の見学・参加 15:30～16:00 ・学生カンファレンス 本日の振り返りと翌日の行動調整	1）看護部長・病棟への挨拶と学生自己紹介 2）病院の概要説明・施設見学 （1）基礎看護学実習要綱　実習内容参照 3）病棟の概要説明・病棟内見学 （1）基礎看護学実習要綱　実習内容参照 4）診療録・看護記録類の取り扱い方法の説明を受ける （1）対象情報の取り扱いに関する注意事項 5）受け持ち対象の紹介 （1）病態・症状・治療方針・看護方針・ケア時の留意点 （2）対象の看護計画（看護目標・解決目標・具体策）の理解 6）受け持ち対象の情報収集 （1）事前学習・アセスメントガイドを活用した情報収集 7）コミュニケーションを通し、対象と意図的な関わりをもつ （1）対象への自己紹介 （2）自ら進んでコミュニケーションをとる 8）報告・連絡・相談を行い、看護学生としての自覚と責任をもつ （1）不明な点は積極的に質問し確認する 9）ショートカンファレンスの実施 （1）学生が主体となり運営を行い、本日の学びや看護目標の達成度を評価し、翌日の実施計画について指導者・教員から助言を受ける （2）本日の疑問を解決し、翌日の実習に活かす （3）学生個々の学びを共有する	様式 1-1 ＜帰宅後＞ 様式 1-1 実施内容・考察を記録 翌日の 様式 1-1 様式 1-2 様式 1-3 様式 1-5
病院実習　2日目	9:00～16:00 行動計画表の発表・行動調整 昨夕～今朝までの情報収集 バイタルサイン測定の実施 環境整備 昼食準備　配膳・下膳 看護師と共に看護ケアの見学 受け持ち対象とのコミュニケーション ケア見学以外の時間で情報収集 指導者へ見学した内容の報告	1）前日の情報、行動計画表の評価・振り返りから、対象の状況に合わせた行動計画表を記載する （1）看護目標は対象の状況を考える （2）対象に行われている援助の目的を考える 2）受け持ち対象に行われている看護援助を見学し対象に行われている援助について考える （1）バイタルサインの測定、観察項目の確認 （2）予定されている日常生活援助の内容 ①清潔・衣生活の観察の視点 ②食事・排泄の観察の視点 ③姿勢・活動、休息・睡眠の観察の視点 ④日常生活動作の自立度と生活行動 ⑤一日の生活様式（生活リズムや日課） ⑥対象の日常生活の制限 （3）行われている治療や検査内容	様式 1-1 ＜帰宅後＞ 様式 1-1 様式 1-2 実施内容・考察を記録 翌日の 様式 1-1、 様式 1-2 様式 1-3 様式 1-5

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病院実習 2日目	15:30～16:00 ・学生カンファレンス 本日の振り返りと翌日の行動調整	3）対象の療養環境について確認する (1) 療養環境の観察の視点・環境測定 (2) 室温、湿度、照度、騒音、臭気、 (3) ベッド周囲の環境（清潔度、整理整頓） (4) リネン、寝衣の状況、プライバシーの確保 (5) 転倒･転落予防を考えた環境整備 4）ヘンダーソンのアセスメントガイドを基に情報を得る	
病院実習 3日目	9:00～16:00 行動計画表の発表・行動調整 昨夕～今朝までの情報収集 バイタルサイン測定と観察 環境整備 昼食準備　配膳・下膳 看護師と共に看護ケアの見学・実施（指導の下、清潔の援助・食事介助、移乗・移動介助） 受け持ち対象とのコミュニケーション ケア見学以外の時間で情報収集 指導者へ見学実施した内容の報告 15:30～16:00 ・学生カンファレンス 本日の振り返りと翌日の行動調整	1）前日の情報、行動計画表の評価・振り返りから、対象の状況に合わせた行動計画表を記載する (1) 見学あるいは実施したいケアの内容を行動計画・看護技術カードに基づいて発表する 2）対象の日常生活の状態を把握できたか確認 (1) 清潔・衣生活の観察の視点 (2) 食事・排泄の観察の視点 (3) 姿勢・活動、休息・睡眠の観察の視点 (4) 日常生活動作を観察し自立度と生活行動を把握する (5) 一日の生活様式（生活リズムや日課） (6) 対象の日常生活の制限 3) 受け持ち対象における看護援助の意味を考える (1) 援助の目的は対象にとってどうであったか (2) 援助は対象にどのように影響したか (3) 対象の安全性・安楽・自立をどのように考えるか (4) 観察は対象に即した内容で、バイタルサイン測定が原理原則に基づき正確に測定できたか (5) 身体的・精神的・社会的側面から対象をどのように捉えることができたか 4）基本的欲求に関する主観的情報 S・客観的情報 O を「体力」「意思力」「知識」の枠組みに分類する 5）ヘンダーソンが述べているニードの充足している状態を踏まえ、標準・平均・正常・日常性と比較して充足・未充足の判断をする	様式 1-1 様式 1-2 様式 1-3 様式 1-5 ＜帰宅後＞ 様式 1-1 様式 1-2 実施内容・考察を記録 翌日の 様式 1-1、 様式 1-2 様式 1-5
病院実習 4日目	9:00～16:00 3日目と同様	1）3日目1）2）3）4）と同様 2）体験できなかった看護技術項目や不足の内容を考え、随時看護技術カードを作成し実践する 3）受け持ち対象の本日の体調に応じて、行動計画表・看護技術カードの内容を修正・追加し実践する 4）未充足のニードについて、未充足である原因・誘因を考える	様式 1-1 様式 1-2 様式 1-5 様式 1-6 提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
	15:30～16:00 ・学生カンファレンス(テーマ)	5）テーマカンファレンス ＜テーマ＞ 受け持ち対象のニードの充足・未充足の判断と看護の方向性 (1) 受け持ち対象のニードに関して、充足・未充足と判断した理由・根拠について各自が発表する (2) 上記発表内容を学生間で共有し、「対象にとってのニードが充足している状態の導き出し方と充足・未充足の判断方法」について意見交換を行う	＜帰宅後＞ 様式 1-1 様式 1-2 様式,1-5 修正・追加分の記録 様式 1-6
病院実習 5日目以降	9:00～16:00 3 日目と同様 中間評価 3 者評価し実習後半に向けての課題を明確にする 15:30～16:00 ・学生カンファレンス	1）３日目１）２）３）４)、４日目２）３）４）同様 2）全体像（関連図）から看護上の課題を明確にする 3）病院実習 6 日目に中間評価を行う 4）カンファレンスの実施 (1) ショートカンファレンス（毎日） (2) テーマカンファレンス（最終日） ＜テーマ＞ 受け持ち対象の看護を通しての学びと今後の自己課題	様式 1-1 様式 1-2 様式 1-5 様式 1-6 修正・追加分の記録 提出 ＜帰宅後＞ 様式 1-1 様式 1-2 様式 1-5 様式 1-6 修正・追加分の記録
学内実習	9:00～16:00 学習内容の整理・まとめ 実習記録の提出準備 実習報告会 リフレクション面談	1）情報収集~関連図までの看護過程展開の見直し 2）看護技術経験録・自己評価表・学習行動自己評価表の確認 3）実習報告会発表準備 4）リフレクションシート記載後に、実習担当教員と面談を行う (1) 自己課題と自己課題の解決方法について (2) 自己の看護に対する考え	様式 1-9 様式 1-10

基礎看護学実習Ⅰ　学内実習 18 時間（0・4 単位）

	学習カテゴリー	学習内容
実習前課題学習	発達段階・発達課題 解剖生理・病態生理 疾患の病態関連図 治療・処置・検査 経過別看護 疾患・症状別看護 日常生活援助技術	1. 自己学習ノートの作成 1）成人期・老年期の発達段階・発達課題 (1) エリクソン・ハヴィーガースト・レビン (2) 身体的・精神的・社会的特徴 (3) 特徴的な健康課題 2）受け持ち対象の主たる疾患の解剖生理・病態生理 (1) 正常な解剖・生理機能

	学習カテゴリー	学習内容
（9時間：0・2単位）	多職種連携 看護過程展開方法	（2）疾患・症状の成り立ち・機序、合併症リスク （3）治療内容（薬物療法・食事療法・運動療法など） （4）検査（血液検査、造影検査など） （5）病態関連図の作成 3）慢性期・回復期の特徴と看護 （1）継続看護・退院調整（社会資源の活用） （2）学習支援・退院指導 （3）リハビリテーション （4）合併症予防 4）多職種連携 （1）病院の機能・役割 （2）病院各部門の特徴と機能 （3）看護の機能・役割（看護活動の場） 2．技術カードの作成 （1）バイタルサイン測定・フィジカルアセスメンント （2）リネン（シーツ）交換・環境整備 （3）原理原則、実施手順、観察点、根拠・留意点の整理 （4）技術練習 3．情報収集～関連図作成までの展開方法復習・確認・準備 1）事前学習・アセスメントガイドを活用し、情報収集に向けた準備を行う 2）コミュニケーションを通した情報収集 4．初日の行動計画表の立案
事後課題学習（9時間：0・2単位）	リフレクション 実習報告会	1．リフレクションシートの記載 1）実習目的・目標の達成度 2）目標達成に向けた自己の課題と課題解決に向けた具体的な行動目標の明確化 2．実習報告会の参加 1）他の学生の学びを共有する 2）自己の看護の対する考えを、実習体験を踏まえて発表

3．看護技術の経験　　確実に実施◎　　実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	○	清拭･洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備･調整	実施	○	シャワー浴	実施
◎	ベッドメーキング	実施	○	食事の準備　食事配膳･下膳	実施
◎	リネン交換	実施	○	車椅子･ｽﾄﾚｯﾁｬｰ移乗･移送	実施
◎	手指衛生	実施	○	移動(体位変換)	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助	実施

４．実習スケジュールと基礎看護学実習Ｉ記録用紙一覧

様式Ｎｏ	用紙名	スケジュール
1－1	行動計画表	毎日記載 その日の実習終了後に振り返りを記載し、翌朝提出
1－2	看護技術カード	その日の行動計画表に添付して、朝提出 実施後は評価を記載し、翌朝提出
1‐3‐1	基本情報（常在条件）	病院実習２日目
1‐3‐2	基本情報(病理的状態①)	病院実習２日目
1‐3‐3	基本情報(病理的状態②)	病院実習２日目
1－4	経過一覧表(フローシート)	バイタルサイン測定時に記載
1‐5	アセスメント用紙	病院実習３日目 情報整理、充足・未充足の判断まで
		病院実習４日目　分析・解釈、アセスメントの結論
1―6	全体像（関連図）	病院実習４日目
1－9	引用・参考文献	病棟実習終了後の学内学習日
1－10	リフレクションシート	

５．実習記録・その他　提出ファイルの綴り方

＜クリアファイル＞　　上から　　１）学生自己評価表（原本）
２）リフレクションシート（コピー）
３）看護学実習評価アンケート（学生用）
４）臨地実習出席簿
５）看護技術経験録

＜実習ファイル＞

上(表紙)　【 提出記録と綴り順番 】

１）リフレクションシート(様式１－10　原本)
２）学生自己評価表（コピー）
３）学習行動自己評価表　　※　１）～３）は、各々クリアブックに入れる
４）行動計画表　　(様式１－1)　前から日付順に綴る
５）看護技術カード　　(様式１－2)　技術項目別で各々クリアブックに入れて綴る
６）基本情報　　(様式１－3－1~3)
７）フローシート　　(様式１－4)
８）アセスメント用紙　　(様式１－5)
９）全体像（関連図）　　(様式１－6)
１０）引用・参考文献　　(様式1―9)　　※　４）～９）には、インデックスをつける
１１）自己学習ノート　　(クリアブックに入れる)

下

基礎看護学実習Ⅰ　評価表　【 学生自己評価 】

学籍番号		学生氏名	
実習施設	病院　　病棟	実習期間	令和　　年　　月　　日～　　月　　日

	No	評価項目	中間	最終	割合
Ⅰ．対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる					35% 得点 /35
対象の理解	1	対象の生活背景がわかる			
	2	病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる			
	3	対象の入院生活行動の情報を得ることができる			
	4	基本的欲求の充足・未充足がわかる			
	5	基本的欲求が未充足である原因・誘因がわかる			
	6	対象の全体像がわかる			
Ⅱ．対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる					
援助的関係	7	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる			
	8	対象が病気や治療、入院生活に対して感じていることがわかる			
	9	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる			
Ⅲ．対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる					30% 得点 /30
日常生活援助	10	バイタルサインの測定ができ、対象の状態をアセスメントできる			
	11	対象の療養環境をアセスメントし病室・病床の環境調整･環境整備ができる			
	12	看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる			
Ⅳ．スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる					
感染予防	13	感染予防のための行動がとれる			
	14	医療廃棄物の処理法の実際を理解できる			
Ⅴ．チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる					35% 得点 /35
チームの一員	15	多職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる			
	16	チームの一員として責任ある行動がとれる			
Ⅵ．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる					
自己研鑽	17	自己の課題解決、目標達成に向けて取り組むことができる			
	18	継続して学習する姿勢を有している			
Ⅶ．看護体験を通して看護のあり方を考えることができる					
看護の確立	19	実習での学びから、看護に対する自分の思いや考えを述べることができる			

【評価基準】

5：できる（助言をほとんど必要とせずにできる）　　4：だいたいできる（助言をすればできる）

3：努力を要す（繰り返し助言をすればできる）　　2：助言をしてもできないことが多い

0：助言してもできない

／90h

自己評価

基礎看護学実習Ⅰ　評価ガイダンス

	評価項目	評価内容	評価基準
対象の理解	Ⅰ．対象の健康障害が日常生活に影響を及ぼすことが理解できる	1. 対象の生活背景がわかる	1)基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2)対象の生活背景(家族･職業･生活習慣･生活環境など)の特徴を捉えることができている
		2. 病気や治療が対象の日常生活に影響を及ぼすことがわかる	1)基本的欲求を変容させる病理的状態の情報を分類･整理できている 2)対象の健康レベルを理解できている 3)病理的状態から、疾病の原因･症状、治療･検査の文献学習ができている
		3. 対象の入院生活行動の情報を得ることができる	1)健康状態のアセスメントに必要な客観的･主観的情報を収集することができている 2)基本的看護の構成要素 14 項目の情報を「体力」「意思力」「知識」で分類し整理することができている
		4. 基本的欲求の充足･未充足がわかる	1)対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニードの充足･未充足を判断することができている 2)基本的ニードが未充足と判断した理由を記述することができている
		5. 基本的欲求が未充足である原因・誘因がわかる	2)未充足ニードに対して他のニードと関連させ、原因･誘因の解釈･分析ができている 3)未充足の原因・誘因を体力･意思力･知識のいずれの不足によるものか判断することができている
		6. 対象の全体像がわかる	1)対象の身体的･精神的･社会的な側面を統合し関連図を描くことができている
援助的関係の形成	Ⅱ. 対象に関心を向け、コミュニケーションを図ることができる	7. 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1)対象の行動予定、病状を確認してからコミュニケーションを図ることができている 2)適切な言葉遣いや会話の内容を考え話すことができている 3)コミュニケーションの場や雰囲気作り・時間の工夫ができている
		8. 対象が病気や治療･入院生活に対して感じていることがわかる	1)対象の話をありのまま受け止めながら会話することができている 2)対象が病気や治療・入院生活で感じていることを知ることができている
		9. 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1)判断･行動する際には、相手の了解了承を得ることができている 2)対象の反応を捉え自己の行動を調整することができている 3)プライバシーに配慮した行動がとれている
日常生活援助	Ⅲ．対象に行われている日常生活援助の必要性が理解できる	10. バイタルサイン測定ができ、対象の状態をアセスメントできる	1)バイタルサインを正確に測定できている 2)測定した値を基準値･日常性と比較して正常か異常の判断ができている

	評価項目	評価内容	評価基準
			3)その後の看護援助を実施してよいか、中止すべきかの判断とその理由を述べることができている
		11.対象の療養環境をアセスメントし病室･病床の環境調整・環境整備ができる	1)対象の普段の生活と入院の生活環境の違いを記述できている 2)対象の一日の過ごし方がわかっている 3)日常生活行動における自立度を確認することができている 4)基本的ニード充足のための環境を考え、理解したことを記述できている 5)対象に応じた環境調整・環境整備ができている
		12.看護師と共に対象の日常生活援助が実施できる	1)病棟の看護計画を用い、対象に行われている日常生活援助を確認することができている 2)基本的ニードの未充足部分と実施されている援助の必要性を関連付けて述べることができている 3)実施する看護技術の原理・原則を踏まえた看護技術カードが作成できている
感染予防	Ⅳ．スタンダードプリコーションに基づいた感染予防行動が理解できる	13.感染予防のための行動がとれる	1)手洗い・擦式消毒の実施ができている 2)一処置一手洗いの実施ができている 3)指導の下、便･尿･血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができている
		14.医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1)廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解することができている 2)指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	Ⅴ．チーム医療に参加して、他職種と連携・協働していることがわかる	15.多職種と協働している場面に参加し看護師の役割がわかる	1)病院・看護部の特色がわかり内容の記述ができている 2)病棟の特色と看護体制がわかり内容の記述ができている 3)連携･協働する職種と主な役割が理解できたことを表現することができている 4)連携･協働するなかで､情報の共有の必要性が理解できたことを表現することができている 5)連携･協働する中で看護師の役割が理解できたことを表現することができている
		16.チームの一員として責任ある行動がとれる	1)自分で解決できないとき、判断に迷う時は指導者・教員に相談できている 2)その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができている 3)相手の指導・助言を素直に聴くことができている 4)対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 3)実習メンバーと協力し学習を進めることができている

	評価項目	評価内容	評価基準
自己学習・自己研鑽	Ⅵ. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的な行動の必要性がわかる	17. 自己の課題の解決、目標達成に向けて取り組むことができる	1)実習の目的・目標、実習方法を理解できている 2)自分で体験・実施したことの振り返りができている 3)自己の課題を述べることができている
		18. 継続して学習する姿勢を有している	1)事前学習･事後学習に取り組むことができている 2)文献検索とその活用をすることができている 3)学習ノートの作成とその活用をすることができている
看護観の確立	Ⅶ. 看護体験を通して看護のあり方を考えることができる	19. 実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる	1)実習を通しての学びから看護に対する考えを自分の言葉で表現することができている 2)対象との関わりを通して学んだことを記述することができている

基礎看護学実習　Ⅱ

目的

対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を習得する。

目標

1．受け持ち対象の情報を用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる。
2．コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。
3．日常生活上の課題の看護計画が立案できる。
4．立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる。
5．行った援助を振り返り、評価・修正ができる。
6．スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる。
7．チーム医療に参加して、多職種との連携の必要性がわかる。
8．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる。
9．看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 受け持ち対象の情報を用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる	1)基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる 2) 基本的欲求を変容させる病理的状態を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる 3)疾病や入院が対象の精神面にどのような影響	(1)基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報収集 ・対象、家族、看護師との会話から情報収集 ・診療録・看護記録からの情報収集 ①対象の生活背景 ・入院前の生活様式・生活習慣、生活環境、家族、職業 ②入院前の身体的･精神的・社会的側面の情報収集 ③診断名・現病歴・既往歴 入院時の状態・入院から受け持つまでの経過、対象・家族への説明内容と受け止め方 ④症状・検査結果・バイタルサイン・ 治療方針・治療内容 ⑤対象の日常生活行動と自立度 入院後の一日の生活様式 (2)入院生活や疾病に関する対象の反応 ①表情,態度,症状,行動の観察	a.疾患に関する解剖生理,病態を学習 b.疾患の学習は、病名からだけでなく、その疾患のために体のどの部分に障害があり、生活にどのように支障が生じているのかを考える c.看護過程の展開方法は授業を振り返り想起しながら進める d.受け持ち対象の情報を整理 ・対象の疾患の概要と症状を関連付けて考える ・対象の入院前の生活 ・生活習慣と疾患の関連 e.疾患が及ぼす精神的・社会的影響と生活への影響を考える f.基本的欲求の未充足を常在条件、病理的状態と関連付け未充足の原因誘因を探る

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	を及ぼしているか理解できる 4) 疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる 5)基本的看護の構成要素 14 項目に沿って情報を分類・整理できる 6)情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる 7)関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる	②入院生活や病気,治療に対する思いを知る (3)疾病や入院による対象の社会面への影響 ①余暇活動・人間関係の維持・経済基盤などへの影響 ②家族内役割・社会的役割の変化 (4)基本的看護の構成要素 14 項目の情報収集・分類・整理 ①呼吸・循環・体温　②栄養③排泄④姿勢・活動⑤睡眠・休息⑥衣類・清潔⑦環境⑧コミュニケーション⑨信仰・信条⑩達成感⑪レクリエーション⑫学習 (5)基本的欲求の充足状態 ・充足した状態、未充足の状態を判断する ・未充足状態の原因誘因を解釈・分析する ・対象の充足状態を示す ・看護の方向性を示す (6)関連図の作成 ・未充足のニードに対して、他のニードと関連させ、原因・誘因を描ける ・身体的・精神的・社会的側面から関連図を描く ・看護上の課題を示す	a. ヘンダーソンのアセスメントガイドを用い客観的・主観的情報を収集・分類・整理 b.発達段階を踏まえ、対象の生活の視点から考える c.基本的欲求の状態を健康時の状態や基準値、正常値、日常性などと比較し未充足の判断をする d.収集した対象の情報の意味を考え解釈・分析する e.「体力」「意思力」「知識」のいずれの不足によるものか判断する a.関連図の記載ルール従って描く b.アセスメントした内容を対象の身体的・精神的・社会的側面の関連を考えて描く c.看護課題を明らかにする 潜在的課題 顕在的課題
2. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。	1)対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1)コミュニケーションを図る ①適切な言葉遣いや会話の内容を選択する ②会話をしながら、意図的に必要な情報を得る ③対象に関心を向け、傾聴する姿勢をもつ ④対象の状況(健康状態・検査処置・面会者など)や日課・生	a.関係構築のためのコミュニケーションの基本を復習する ・言語的、非言語的コミュニケーション ・コミュニケーション技法 b.場や時間の工夫 c.傾聴・共感 d.他者への関心

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする	e.状況や状態の把握と判断
	2)対象の表情･行動･言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる	(2)対象の思いを知る ①対象との会話、表情、態度、行動を観察する ②対象の話す内容を正確に受け止め思いを知る ③不明な点は、必要時意味の確認をする ④対象の価値観を知る	a.対象の主観的情報は客観的情報と関連付けて解釈し対象の思いを受容する b.対象の表情や行動から言葉の意味を考える c.判断がつかない場合は指導者の助言を求める
	3)倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	(3)思いやる行動がとれる ①対象の反応を捉え自己の行動を調整する ②説明と同意の確認 ③了解了承を得てから看護援助の実施をする ④対象の質問や要請に誠実に対応する ⑤プライバシーに配慮した行動をとる ⑥対象を尊重した態度で接する	a.対象の価値観の尊重 b.信条を捉える c.対象の QOL を考える d.信頼関係、援助関係を成立させる e.ねぎらいの言葉掛け f.対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る g.プライバシーへの配慮
3. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる。	1)看護上の課題の優先順位を判断･決定できる	(1) 看護課題とその優先順位を根拠をもって決定する ①マズローのニード階層 ･生命の危険度 ･対象の苦痛の度合いや希望 ･健康あるいは健康回復に及ぼす影響 ･あるひとつの課題解決が他の課題解決に及ぼす影響	a. マズローのニード階層から看護課題の優先度を考える b.根拠を持って看護課題の優先順位を決定する
	2)対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる	(2)対象の看護目標と解決目標（期待される結果）を考える ①RUMBA の法則	c.対象の看護目標は目安として退院時に望ましい姿を表現する d.看護目標は健康レベル、疾病・治療から今後の経過を予測して目標立てする
	3)具体的な解決目標が設定できる 4) 対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる	(3)対象の看護課題を解決するための具体的援助方法を考える ・OP 観察計画 ・TP ケア計画 ・EP 指導/教育計画	e.期待される結果は対象の現在の状況を把握し、達成可能な身近な目標を考える（経過を予測した根拠のある設定） f.対象の変容を推測し評価日

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		①５W1H ②体力･意思力･知識の不足を補う計画 ③対象の希望･意向、自立度、日課、生活リズムに即した計画 ④予防的援助(潜在的課題) ⑤残存機能･持てる力を最大限に活用した援助方法 ⑥安全･安楽を考慮した援助 ⑦QOL を考慮した援助	を設定する g.看護計画は誰が見てもわかるよう５Ｗ１Ｈで具体的に記載する h.日常生活援助技術を中心に対象が必要とする生活援助の方法を考える
4. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	1)目的･必要性･期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている 2)対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる 3) 対象の看護技術を原理･原則に基づき安全･安楽に実施できる 4)対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる 5)全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	(1)実施する援助 ・コミュニケーション技術 ・観察技術 ・バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・環境整備　・清潔の援助 ・食事の援助・排泄の援助 ・寝衣交換・活動・休息の援助 (2)状態観察・アセスメントから援助を実施してよいかの判断とその理由を示す (3)実施する看護技術の原理原則を踏まえて手順を踏む：看護技術カードの作成 (4)実施する援助の目的・方法を説明し同意を得る (5)実施中の対象を観察して反応を捉える (6)安全・安楽に向けての援助 ･対象の苦痛や体力の消耗を最小限になるように配慮する ･プライバシーに配慮しながら実施する (7)自立・個別性に配慮した援助 ･対象の ADL の自立、生活習慣、信条、嗜好などを考慮	a.バイタルサイン、身体の観察からフィジカルアセスメントをする b.実施する援助に必要な技術の原理原則の学習 c.対象への説明から後始末まで一連の看護援助を行う d.実施する援助の目的･必要性･期待される結果・事後の影響を理解して対象に説明 e.対象の理解度に合わせた説明方法を選択し同意を得る f.対象の反応を見ながら実施 g.安全･安楽･自立･個別性、プライバシーに配慮しながら実施 h.誰に、いつ、報告すべきか判断 i.看護技術カードを確認して対象に適しているか確認する j.対象の状態に応じて、看護技術カードを更新する

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
5. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる	1)その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更･継続ができる 2)目標の達成度を分析し達成できた･できなかった場合の原因を考えることができる 3)評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる	(1)実施した看護援助の評価 ・援助の方法は対象に適していたか ・対象の安全・安楽への配慮ができていたか ・実施した援助の内容について対象の満足度・充足度・自立度の考慮ができていたか ・対象の反応を確認して実施できたか (1)目標の達成結果を分析 ・目標が達成できた場合、効果があったものは何か ・目標が達成できなかった場合看護過程のプロセスをフィードバックし、原因を明らかにする (1)日々の評価に基づき、援助内容・方法の検討を行う ・看護課題、期待される結果の達成度や解決策の評価	a. 対象の反応や結果を確認し、行った援助を振り返る b.計画した援助を実施し、期待される結果が達成されているか確認する c.その日の援助内容を振り返りアセスメントし、その結果を翌日の行動計画に反映させる d.看護計画の評価日の評価において、計画の終了か続行か修正かを明確する e.課題解決に向け目標がどの程度達成されているか評価 f.達成状況を根拠に基づいてアセスメントする g.目標の達成度を判断する h.計画の継続･修正･追加を判断する i.看護目標の妥当性を考察する
6. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる	1)感染予防のための行動がとれる 2)医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	(1)スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動の実施 ①一処置一手洗いの実施 ②手指衛生 ③便・尿・血液の付着したものの取り扱い (2)個人防護用具 ①手袋･エプロン･マスクの着用方法と外し方 (3)医療廃棄物の分別方法 (4)感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別)	a.スタンダードプリコーション b.手指衛生の方法 c.リネン汚染(便･尿･血液) d.病原菌による消毒薬の違い e.ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法 f.感染性廃棄物の分別と表示の確認 ・バイオハザードマークの種別について g.感染性廃棄物の取り扱い時の注意点
7. チーム医療に参加して、多職種との連携の必要性がわかる	1)多職種との連携･調整において看護師の役割がわかる	(1)多職種との協働･連携場面に参加する ･病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認 ･リハビリカンファレンスに参	a.多職種チームとしての情報共有と継続的な関わり b.看護師の役割を考える ・情報の共有 ・健康回復･維持するための

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		加している職種と内容の確認 ･栄養指導場面の見学 ･看護と介護の連携場面の見学 (2)看護師の役割を考える	支援 ・ 多職種間との調整役割 ・継続看護の重要性
	2) チームの一員として責任ある行動がとれる	(1) 誰に,いつ,報告すべきかを判断し,時期を逃さずに報告する (2)自分で解決できない時､判断に迷う時は相談する (3)対象の状態を事実に基づき客観的な表現を用い報告する (4)場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする (5)指導、助言を素直に聞く姿勢を示す (6)プライバシーに配慮し知り得た情報を外部に漏らさない (7)実習メンバーと協力し学習を進める	a.報告・連絡・相談 b.情報の共有 c.客観的・主観的情報 d.守秘義務・プライバシーの保護 e.リーダーシップ・メンバーシップ f.規律・規範を守る ・挨拶、身だしなみ ・言葉遣い ・約束事を守る ・自己の健康管理 g.他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える h.学生間の協力・協調 i.学生間の情報の共有
8. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	1)自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる	(1)実習の目的･目標、実習方法を理解する (2)学生自己評価表を用いて適切に評価す (3)自己の課題を明らかにする (4)目標を定め、課題を解決する方法を示す (5)課題を解決するための行動を示す (6)カンファレンスで自己の考えを述べる (7)自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う	a.既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認 b.自己課題を持って学習に取り組む c.目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める d.文献･既習学習を活用し学習を深める e.仲間に助言を求める f.看護技術カードを作成し、必要時更新していく
	2)継続して学習する姿勢を有している	(1)学習の習慣化 (2)積み上げ学習 (3)看護職としての自己研鑽の必要性 (4)興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢	a.自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る b.自己の傾向を認識し行動を変容させる c.変容した姿を他者にわかるように示す

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
			d.常に既習学習、学習ノート文献の活用をする e.看護学生倫理要領の意味を理解する f.事前学習、事後学習に取り組む
9.　看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる	1)実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる	(1)看護に対する自分の思い、考えを論理的に相手に伝わるようカンファレンスで述べる (2)相手の意見を聴き、自分と他者の違いを知り、自己の学びを発展させる (3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考えを記述する (4)理論の活用をする ナイチンゲール・ヘンダーソン	a.看護の過程を振り返り対象を通しての学びを整理する b.既習の知識や理論を基に、対象との関わりを分析し看護とは何かを探求する c.看護理論（ナイチンゲール・ヘンダーソン）を活かす d.看護の主要概念を確認する e.論理的思考を用いる ・帰納法 ・演繹法

実習方法

１．対象の選定

１）原則として、成人期・老年期で慢性期・回復期にある対象。

２）病態が複雑ではない。

３）日常生活の援助を必要とする。

４）言語的コミュニケーションが可能である。

２．実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	9:00~14:30 臨地実習ガイダンス 基礎看護学実習Ⅰガイダンス 施設別ガイダンス 事前学習・文献検索	１）臨地実習の意義・目的・学生心得 ２）基礎看護学実習Ⅰ目的・目標・行動目標・実習内容・実習方法 ３）施設別ガイダンス (1) 実習担当教員との打ち合わせ (2) 病院の特徴・交通手段・持参する必要物品の確認 (3) 受け持ち患者の決定・基礎情報の受け取り ４）実習準備学習の確認	様式１－１ 様式１－２ ※自己学習ノート

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病院実習1週目	＜実習初日＞ 9:00～16:00 ・学生病棟挨拶 ・臨地実習指導者紹介 ・病棟オリエンテーション ・実習の説明と同意 ・受け持ち対象の決定 ・対象オリエンテーション ・受け持ち対象へ挨拶 ・受け持ち対象の情報収集、コミュニケーション、 看護援助の見学･参加 15:30～ ショートカンファレンス ・本日の振り返り ・翌日の行動計画 《実習２日目以降》 9:00～ ・行動計画発表 ・行動調整 ・前日～夜間の対象情報収集 ・実施計画に基づき看護ケアの実施 15:30～ ショートカンファレンス 《金曜日》 15:30～ テーマカンファレンス	※日常生活援助を行いながら、受け持ち対象の情報収集を行う 1)病棟への挨拶と学生自己紹介 2)病棟オリエンテーションを受ける ・構造･設備･特殊性　・看護方針や体制　・月間･週間予定 ・入院対象の特性　・物品の保管場所や管理方法 ・記録物の種類と閲覧方法 3)受け持ち対象の紹介 ・対象紹介　・今週のスケジュール ・病状･治療方針　・禁忌事項　･大まかな看護ケア 4)指導者と本日の行動計画内容の確認･調整 5)対象の病棟看護計画を確認 6)診療録･看護記録からの情報収集を行う 7)対象とコミュニケーションを図りながら情報収集 ・対象との意図的な関わりからの情報収集 ・個人情報保護法に基づく守秘義務の遵守 ・報告･連絡･相談 8)対象の看護援助･ケア計画を確認し、翌日から指導のもと日常生活援助を行いながら看護過程の展開学習を進める 9)司会などカンファレンスは学生が主体となり運行する ・本日の学びと、本日の目標の達成度 ・翌日の実施計画についての相談　疑問の解消 1)前日の実施した内容･結果･評価(考察)を踏まえた実施計画を立案する 2)生活援助を中心としたケアを通して受け持ち対象と関わり、ヘンダーソンの看護理論に基づき看護の思考過程を整理し、対象に日々実施している援助の目的･根拠を明確にしていく 3)実施計画は、対象のスケジュールに沿い立案し、情報と照らして、実施可能か考える 4)本日の看護目標の設定は、対象の期待される結果を考え、対象サイドに立った目標になっているか確認する 5)見学実施したいと考えている援助については、予め看護技術カードを作成して臨む ・日常生活援助技術を中心に対象に必要な生活援助を考える ・受け持ち対象の特徴を捉えることができたら、対象にあった技術を工夫し、必要時看護技術カードを更新していく 6)週末カンファレンス：事例検討 「テーマ：看護上の課題と看護の方向性について」	様式 1-1 (毎日) 様式 1-2 （随時） 2 日目 様式 1-3 4 日目 様式 1－5

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習2週目	9:00～16:00　1週目と同様 ・関連図 ・看護課題と優先順位の根拠 ・看護計画立案後は計画に沿って看護援助を実施 ・日々実施した援助を評価し個別的な援助を検討 中間評価 3者評価し実習後半に向けての課題を明確にする 《金曜日》 15:30～ テーマカンファレンス	※1 週目で得た情報から、身体的･精神的･社会的な側面で対象の概要を把握する（全体像の把握） 1)関連図から看護上の課題を明確にし、優先順位を決定する 2)優先順位の高い課題（上位1つ）に対して看護計画を立案する 3)対象の安全･安楽･自立を考え、具体的に OP/TP/EP を計画 4)看護計画に沿って根拠に基づき日常生活援助を実施し、実施したことを、日々の行動計画表の中で評価・考察する 5)病院実習 6 日目に中間評価を行う 6）週末カンファレンス：事例検討 「テーマ：看護過程評価及び自分が行った看護に対する考え」	様式 1-6 様式 1-7 様式 1-8 以降、随時修正・追加分を提出
学内実習	9:00～14:30 ・期待される結果の達成度を分析しその原因を考える ・評価に基づき看護計画の修正（継続・修正・追加・終了の判断） ・看護目標の妥当性を考察 ・リフレクション面談 ・学習内容の整理・まとめ ・実習記録の提出準備 ・実習報告会	1）期待される結果の達成度を判断する 2）達成ができた根拠、できなかった場合は看護過程のプロセスを振り返り原因を探る 3)看護目標の達成度･妥当性を評価する 4）リフレクション（担当教員との面談） (1) 対象と自己との関係性について振り返る (2) 対象の思いや考えを受け止め看護援助に反映できたかを考える (3) わからない点は質問し目標達成に向けて意欲的に取り組むことができたか (4) リフレクションシートに実施した看護を振り返り、考察し自己課題を明確にする (5) 自己課題の解決方法について 5)看護技術経験録・自己評価表・学習行動自己評価表の確認 6）実習報告会発表準備	様式 1-8 実施・評価 様式 1-9 様式 1-10

基礎看護学実習Ⅱ　　学内実習 18 時間（0・4 単位）

	学習カテゴリー	学習内容
実習前課題学習（6時間：0・1単位）	発達段階・発達課題 解剖生理・病態生理 疾患の病態関連図 治療・処置・検査 経過別看護 疾患・症状別看護 日常生活援助技術 多職種連携 看護過程展開方法	1．自己学習ノートの作成 1）成人期・老年期の発達段階・発達課題 （1）エリクソン・ハヴィーガースト・レビン （2）身体的・精神的・社会的特徴 （3）特徴的な健康課題 2）受け持ち対象の主たる疾患の解剖生理・病態生理 （1）正常な解剖・生理機能 （2）疾患・症状の成り立ち・機序、合併症リスク （3）治療内容（薬物療法・食事療法・運動療法など） （4）検査（血液検査、造影検査など） （5）病態関連図の作成 3）慢性期・回復期の特徴と看護 （1）継続看護・退院調整（社会資源の活用） （2）学習支援・退院指導 （3）リハビリテーション （4）合併症予防 4）多職種連携 （1）病院の機能・役割 （2）病院各部門の特徴と機能 （3）看護の機能・役割（看護活動の場） 2．技術カードの作成 （1）バイタルサイン測定・フィジカルアセスメンント （2）対象の事前情報から考えられる看護技術 （3）原理原則、実施手順、観察点、根拠・留意点の整理 （4）技術練習 3．情報収集～関連図作成までの展開方法復習・確認・準備 1）事前学習・アセスメントガイドを活用し、情報収集に向けた準備を行う 2）コミュニケーションを通した情報収集 4．初日の行動計画表の立案
事後課題学習（12時間：0・3単位）	看護過程展開（評価） リフレクション 実習報告会	1．看護計画の評価（SOAP 記載） 2．リフレクションシートの記載・担当教員との面談 1）実習目的・目標の達成度 2）目標達成に向けた自己の課題と課題解決に向けた具体的な行動目標の明確化 3．実習報告会の参加 1）他の学生の学びを共有する 2）自己の看護の対する考えを、実習体験を踏まえて発表

４．看護技術の経験

確実に実施◎　　実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	◎	清拭･洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備･調整	実施	◎	食事の準備　食事配膳･下膳	実施
◎	ベッドメーキング	実施	◎	車椅子･ｽﾄﾚｯﾁｬｰ移乗･移送	実施
◎	リネン交換	実施	◎	移動(体位変換)	実施
◎	手指衛生	実施	○	シャワー浴	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助	実施

５．看護過程展開のスケジュールと基礎看護学実習Ⅱ記録用紙一覧

様式Ｎｏ	用紙名	スケジュール　提出期限
１－１	行動計画表	毎日朝
１－２	看護技術カード	毎日朝または更新時
1 - 3 - 1	基本情報（常在条件）	実習２日目
1 - 3 - 2	基本情報(病理的状態①)	
1 - 3 - 3	基本情報(病理的状態②)	
1－4	フローシート	必要時
1－5	アセスメント用紙	実習１週目金曜日
1－6	全体像（関連図）	実習２週目月曜日
1－7	看護上の課題　優先順位の根拠	実習２週目月曜日
1－8－1	看護計画用紙(看護目標・解決目標・具体策)	実習２週目火曜日
1－8－2	看護計画用紙（実施・評価、看護目標の評価）	実習３週目月曜日
1－9	使用文献一覧表	実習３週目火曜日
1－10	リフレクションシート	

６．実習記録・その他　提出時の綴り方

＜クリアファイル＞

上から　　1）学生自己評価表（原本）

2）リフレクションシート（コピー）

3）看護学実習評価アンケート（学生用）

4）臨地実習出席簿

5）看護技術経験録

＜実習ファイル＞

上(表紙)　【 提出記録と綴り順番 】

1）リフレクションシート(様式１－10　原本)

2）学生自己評価表（コピー）

3）学習行動自己評価表

※　1）～3）は、各々クリアブックに入れる

4）行動計画表　　（様式1－1）　前から日付順に綴る

5）看護技術カード（様式1－2）　技術項目別にクリアブックに入れ、新しい日付が一番上になるように重ねて入れる

6）基本情報　　(様式1－3－1~3)

7）フローシート　　(様式１－4)

8）看護過程アセスメント用紙　　(様式1－5)

9）全体像（関連図）　　(様式１－６)

10）看護上の課題・優先順位の根拠　(様式１－７)

11）看護計画用紙　　(様式１－８－1~2)

12）引用・参考文献一覧表　　(様式1-9)

※　4）～12）には、インデックスをつける

10）自己学習ノート　　（クリアブックに入れる）

下

基礎看護学実習Ⅱ評価表　【 学生自己評価 】

学籍番号		学生氏名	
実習施設	病院　　病棟	実習期間	令和　　年　　月　　日～　　月　　日

	No	評価項目	中間	最終	割合
Ⅰ．受け持ち対象の情報を用いてアセスメントして、看護上の課題が明確にできる					40% 得点/40
対象の理解	1	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる			
	2	基本的欲求を変容させる病理的状態を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる			
	3	疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる			
	4	疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる			
	5	基本的看護の構成要素14項目に沿って情報を分類・整理できる			
	6	情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる			
	7	関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる			
Ⅱ．コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる					
援助的関係の形成	8	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる			
	9	対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる			
	10	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる			
Ⅲ．日常生活上の課題の看護計画が立案できる					30% 得点/30
看護計画立案	11	看護上の課題の優先順位を判断・決定できる			
	12	対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる			
	13	具体的な解決目標が設定できる			
	14	対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる			
Ⅳ．立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる					
日常生活援助	15	目的･必要性･期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し同意を得ている			
	16	対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる			
	17	対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる			
	18	対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる			
	19	全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる			
Ⅴ．行った援助を振り返り、評価・修正ができる					
評価	20	その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる			
	21	目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考えることができる			
	22	評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる			
Ⅵ．スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる					30% 得点/30
感染予防	23	感染予防のための行動がとれる			
	24	医療廃棄物の処理法の実際を理解できる			
Ⅶ．チーム医療に参加して、多職種との連携の必要性がわかる					
チームの一員	25	多職種との連携・調整において看護師の役割がわかる			
	26	チームの一員として責任ある行動がとれる			
Ⅷ．看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる					
自己研鑽	27	自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる			
	28	継続して学習する姿勢を有している			
Ⅸ．看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる					
看護の確立	29	実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる			

【評価基準】

5：できる(助言をほとんど必要とせずにできる)　　4：だいたいできる(助言をすればできる)

3：努力を要す(繰り返し助言をすればできる)　　2：助言してもできないことが多い

0：助言してもできない

評価点	点
時間数	／90

自己評価

基礎看護学実習Ⅱ　評価ガイダンス

分類	評価項目	評価内容	評価基準
対象理解	Ⅰ．受け持ち対象の情報を用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる	1. 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる	1)基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2)対象の生活背景(家族･職業･生活習慣･生活環境など)の特徴を捉えることができている 3)発達段階･発達課題の特徴と対象の個別性を関連付けて述べることができている
		2. 基本的欲求を変容させる病理的状態を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1)基本的欲求を変容させる病理的状態の情報を分類･整理できている 2)対象の健康レベルを理解できている 3)病理的状態から、疾病の原因･症状、治療･検査が理解できている 4)対象の疾病や障害の経過、現在の状態・自立度を捉えることができている
		3. 疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1)対象の入院生活に対する思い、疾病や治療に対して感じていることを述べることができている 2)入院生活や治療が対象の精神面に及ぼす影響について述べることができている
		4. 疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1)疾病や入院により、対象の社会面(就労生活･家庭生活･余暇活動人間関係の維持･経済基盤など)への影響について述べることができている 2)対象の家族内役割･社会的役割の変化を述べることができている
		5. 基本的看護の構成要素14項目に沿って情報を分類･整理できる	1)健康状態のアセスメントに必要な客観的･主観的情報を収集し、基本的看護の構成要素１４項目の情報を分類･整理することができている
		6. 情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる	1)対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニードの充足･未充足を判断することができている 2)未充足ニードに対して他のニードと関連させ、原因･誘因の解釈･分析ができている 3)未充足の原因・誘因を体力･意思力･知識のいずれの不足によるものか判断することができている 4)充足するため日常生活援助が考えられ看護の方向性を述べることができている
		7. 関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる	1)対象の身体的･精神的･社会的な側面を統合し関連図を描くことができている 2)未充足ニードの結論を踏まえ、対象の現状から必要としている看護課題を抽出することができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
援助的関係の形成	Ⅱ．コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる	8.対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1)対象へ適切な言葉遣いや内容の会話ができている 2)会話の中から意図的に看護に必要な情報を収集できている 3)対象に関心を向け、傾聴する姿勢で接することができている
		9.対象の表情･行動･言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる	1)対象との会話・表情・態度・行動を観察し対象の思いを述べることができている 2)話の内容を正確に受け止め、必要時意味を確認することができている
		10.倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1)判断･行動する際には、相手の了解了承を得ることができている 2)対象からの質問や要請に誠実に対応することができている 3)対象の話を真剣に聴き、心情を思いやることができている 4)対象を尊重した態度で接することができている
看護計画立案	Ⅲ．日常生活上の課題の看護計画が立案できる	11.看護上の課題の優先順位を判断･決定できる	1)看護課題の優先順位の根拠を記載することができている 2)看護課題の優先順位を決定することができている
		12.対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる	1)健康レベル、疾病･治療から今後の経過を予測することができている 2)おおよその目安として退院時に望ましい対象の姿を表現することができている
		13.具体的な解決目標が設定できる	1)期待される結果として身近な目標を設定することができている 2)援助による対象の変容を推測して評価日を設定することができている
		14.対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる	1)対象の個別性(年齢･性別、習慣･嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活の援助を考えることができている 2)対象の病状･症状･自立度に応じた援助の方法を考えることができている 3)対象にとって安全･安楽な方法を考えることができている
日常生活援助	Ⅳ．立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	15.目的･必要性･期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている	1)実施する援助の目的･必要性･期待される結果･事後の影響を理解することができている 2)対象の意向も確認しながら、反応を捉え説明することができている 3)対象の理解度に合わせた説明方法を選択し、同意を得ることができている
		16.対象の状態を把握し、実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる	1)フィジカルアセスメントにより、対象の状態や変化を常に把握することができている 2)対象の状態から実施してよいかの判断をすることができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
日常生活援助		17. 対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる	1)援助にあたり実施前に本人であることの確認を十分行うことができている 2)準備・施行・後始末の各段階を原理原則、科学的根拠に基づいて実施することができている 3)対象の個別性(年齢・性別、病状、習慣・嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活援助を実施することができている 4)観察・実施したことの事実を報告することができている
		18. 対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる	1)対象の意向や生活様式を尊重した方法を工夫し実施することができている 2)実施中、対象の表情や言動を観察・確認しながら実施することができている 3)対象の状態に応じて実施方法を調整することができている
		19. 全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	1)不必要な露出を避け実施することができている 2)対象の人格を尊重し、理解・受容した態度をとることができている 3)プライバシーの保持・守秘義務を理解して行動することができている
評価	Ⅴ. 行った援助を振り返り、評価・修正できる	20. その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる	1)行った援助に対して対象の反応を捉えることができている 2)安全・安楽の視点から実施した援助を評価することができている 3)自立・個別性の視点から実施した援助を評価することができている 4)その日の評価内容を反映させ翌日の行動計画を立案することができている
		21. 目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考えることができる	1)期待される結果と照らし合わせて、目標の達成度を判断することがができている 2)目標が達成できた場合、援助行為の何が、何故良かったのかを明確にすることができている 3)目標が達成できなかった場合、看護過程のプロセスを振り返り原因を明確にすることができている
		22. 評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる	1)科学的根拠に基づき評価した結果から、看護計画(看護上の課題、目標、具体策)の継続・修正・追加をすることができている 2)看護目標の妥当性を考察できている
感染予防	Ⅵ. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防	23. 感染予防のための行動がとれる	1)手洗い・擦式消毒の実施ができている 2)一処置一手洗いの実施ができている 3)指導の下、便・尿・血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
	行動が実施できる	24. 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1)廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解することができている 2)指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	Ⅶ. チーム医療に参加して多職種との連携の必要性がわかる	25. 多職種との連携･調整において看護師の役割がわかる	1)多職種との協働･連携場面に参加し看護師の役割を述べることができている 2)対象を取り巻く人々の連携や継続看護の重要性を表現できている
		26. チームの一員として責任ある行動がとれる	1)正確な状況報告・伝達と時間の調整ができている 2)その場に応じた挨拶･身だしなみ･言葉遣いができている 3)相手の指導･助言を素直に聴くことができている 4)対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 5)グループメンバーとして協力・協調がとれている
自己学習･自己研鑽	Ⅷ. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	27. 自己の課題の解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる	1)実習の目的･目標、実習方法を理解できている 2)自分で実施したことの振り返りができている 3)自己の課題を示すことができている 4)課題に取り組むことができている 5)カンファレンスで自分の考えを述べることができている 6)技術習得に向けて積極的に取り組むことができている
		28. 継続して学習する姿勢を有している	1)事前学習･事後学習に取り組むことができている 2)文献を用いて学習をすることができている 3)学習ノートの作成とその活用をすることができている 4)必要時、看護技術カードの更新をすることができている
看護観の確立	Ⅸ. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる	29. 実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる	1)看護を実践したなかでの気づき思いを述べることができている 2)カンファレンスで自分が行った看護を相手に伝わるように述べることができている 3)対象との関わりを通して学んだことを記述することができている